

玉木愛石 たまき あいしき 書家。嘉永六年十月十六日播磨國明石生れ、昭和二年九月十二日歿（八五三—一九八）。講亭、字子欽、蓮梅本二郎。別號古城、柳塘、清素庵、と命堂、駿臺、愛石環亭等。初め若林鶴洞、宮原易安の學ぶ。のち大阪で郵田海石の門に入る。傍ら教職十餘年。明治四十一年上京。各府縣教育會及び書肆の依頼による揮毫數百種に達し、習字手本として一府二縣に採用せられたといふ。大正元年公は文部省より書方手本揮毫の依頼を受けらる。大正五年大阪に歸居。

著書、細井廣澤遺稿 校訂 増補十體千字文 加筆、明治十四年七月大阪・辻本信太郎出版）、可二體千字文 可（明治二十八年八月十五日大阪・千葉久榮堂）、大町桂月著 新撰 習字書翰文 可（書、大正九年五月一日大阪・立川文明堂）等。